

# ロタウイルス性胃腸炎

定期  
接種

## ロタウイルス性胃腸炎について

ほぼすべての子どもが4～5歳までに感染しますが、特にはじめてかかったときに重症化しやすい特徴があり生後3ヶ月から2歳未満が重症になりやすいです。

## 症状は？

他の胃腸炎より発熱、嘔吐、下痢の程度がひどく、脱水になりやすいです。感染力が非常に強く、**下痢になる2日前くらいから発症後10日くらいはウイルスを排出**し、乳児が感染すると家族内にも感染が広がります。かかってもし生後続く免疫は得られませんが、繰り返すうちに症状は軽くなります<sup>1)</sup>。白色便はロタウイルス性胃腸炎の特徴のひとつですが、他のウイルスでも白色便になることがあります。



## 合併症は？

けいれん

熱性けいれん、胃腸炎関連けいれんなどを起こしやすいです。

脳炎

意識障害や長引くけいれんを伴い、重い脳炎を起こすことがあります。ロタウイルス感染症による脳炎では、脳炎の4割に後遺症が残る報告も<sup>2)</sup>。

腸重積

ロタウイルス感染症が原因で腸重積を起こすことも。(腸重積を参照)



## 治療法と処理のポイント（嘔吐・下痢を参照）

抗ウイルス薬など特別な治療はありません。

**脱水に注意して水分摂取**をこまめに行ってください。

なお、乳幼児では下痢止めも原則投与すべきではありません。またロタウイルスにはアルコールの消毒は効果がありません。

吐物や下痢を処理した後は**次亜塩素酸ナトリウム**や**アイロン**での消毒が有効です。



**潜伏期間 1～3日 改善まで 1週間程度**



参考文献：1) NEJM 335:1022-1028, 1996 (PMID: 8793926)  
2) 臨床と微生物 47, 131-136, 2020  
3) Western Pac Surveill Response J 14:28-36, 2016 (PMID: 28246579)  
4) 日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール (2020年1月版)  
5) 日本小児科学会、ロタウイルスワクチンの初回接種時期について (第2版)。

## ワクチン について

経口生ワクチン。感染そのものは防げませんが、重症化予防が期待でき、接種で入院率が85%減少した報告などがあります<sup>3)</sup>。

↓ 効果は同等で、どちらかを接種します

**1価(ロタリックス)** 生後6週から24週になる前までに2回接種

**5価(ロタテック)** 生後6週から32週になる前までに3回接種

- 初回接種が生後15週以降になると腸重積のリスクが上がるため、生後8週～14週6日までの初回接種がすすめられています<sup>4)</sup>。
- 口から少しこぼれても、ある程度飲み込めていれば再接種は不要。
- 1価と5価のワクチンを交互に接種することはできません。



## ワクチンの副反応 (腸重積を参照)

下痢、嘔吐、胃腸炎、発熱などが1～5%程度、**腸重積**があります。

**1回目の接種後1週間以内**に腸重積症を発症することが稀にあり(10万人あたり1～5人)早く見つけて治療することが非常に大切です。

**ワクチン接種後(特に初回)7日以内は気をつけること<sup>5)</sup>**

すぐに受診

- ☐ 15～30分おきに不機嫌な様子を繰り返す
- ☐ 何度も嘔吐を繰り返す
- ☐ イチゴゼリーのような血便が出る



すぐに受診

- ☐ 嘔吐症状が強く半日以上水が飲めない
- ☐ ぐったりしている
- ☐ 水の様な下痢が1日6回以上ある
- ☐ 口や舌が乾き、涙が出ない
- ☐ 尿の量が少ない
- ☐ 血便が出た
- ☐ けいれん

